

雨に萌ゆる深緑の候

東北地方もいよいよ梅雨の季節を迎えました。先月に5年生が田植えをした学習田の稲も順調に生育しています。

先月行われた角田・丸森地区のリレーカーニバルには、丸森小学校から34名の児童が参加し、その中の10名が県大会出場という栄誉を勝ち取りました。6月27日に行われた県大会ではレベルの高さを実感することになりましたが、9名（1名欠席）もの児童が、レベルの高い大きな大会を経験してきたことは、今後の丸森小学校にとっても大きなプラスとなります。

1学期も、残すところあと3週間ほどとなりました。プレハブ仮設校舎での生活にもすっかり慣れましたが、一方で、感染症拡大による影響を受けた行事や活動もありました。PTA活動もその一つで、役員の皆様にはご苦労をおかけしているところです。今年度は、丸森小学校のPTAが、町のPTA連合会の会長校になっています。このような時こそ、保護者・教職員が一丸となって困難を切り開いていきたいと思っています。

御礼と報告～インターネット利用環境の調査～

6月15日付の「家庭でのインターネット利用環境の調査」に対するご協力ありがとうございました。77%ほどの回答があり、結果は以下の通りでした。

1 家庭でのインターネット利用環境について回答してください。

- ①通信量無制限でインターネットが利用できる環境（W i - f i）がある。89.4%
- ②インターネットは利用できるが、通信量に制限がある。6.1%
- ③インターネットの利用環境がない。4.5%

2 1で①②と回答した方は、今現在、家庭のパソコンやタブレット・スマホ等を使用し、お子さんが学習のために使用していますか。

- ①している 31.7%
- ②していない 68.3%

3 1で①②と回答した方は、児童がタブレット端末を持ち帰った場合、家庭のインターネット環境に接続し、使用させることができますか。

- ①使用させてもよい 96.8%
- ②使用させることは難しい 3.2%

上記の通り、比較的多くのご家庭でW i - f iの環境が整っていることが分かりました。一方で、まだ環境が整っていない家庭があること、回答のなかった家庭にも同様のケースが予想されることから、当面は、学校内でタブレット端末を活用させていくことにいたします。

ただ、今後のより有効な活用方法については、校内で更に検討を続け、保護者の皆様のご意見も頂戴して参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

「子どもが育つ魔法の言葉」

表題の本の著者として有名なドロシー・ロー・ノルトさんは、40年以上にわたり家族、特に親子関係の研究に従事し、親になる人のための学びの場所を開設したり、未就学児童のための学校を作ったりするなど、親子教育の専門家として活動してきた人です。ご存知の方も多いかと思いますが、ドロシーさんの「子は親の鏡」という詩を紹介します。

詩「子は親の鏡」(作:ドロシー・ロー・ノルト)

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人を羨(うらや)んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世はいいところだと思えるようになる



この詩の中に、直接「言葉」に関わることはそれほど多くは出てきません。ただ、このようなことを常に意識しながら子供に声を掛け続けることが、子供が健やかに育つことにつながるのだと思います。

学校が子供たちにとっての小さな社会であるとすれば、学級は子供たちにとっての第二の家庭です。私たち教員も、親と同じ気持ちで、この詩の内容を胸に刻みながら、日々の教育活動に当たります。

ご家庭においても、ぜひ自分たちの子育てに自信を持ち、愛情と規律を重んじ、子供たちの日々の成長を見守っていただきますようお願いいたします。